

◆『戦史秘話』第十話◆

巡洋戦艦「伊吹」の ANZAC 護送

－ 日豪友好の象徴 －

日豪友好の象徴

今から 100 年以上前の第一次世界大戦中、巡洋戦艦「伊吹」は、ANZAC（オーストラリア・ニュージーランド連合軍の略称）護送任務を果たし、日豪（英）の友好関係構築に貢献した。2014 年の ANZAC100 周年にはオーストラリアにおいて記念行事が開催されたように、今日でも巡洋戦艦「伊吹」による ANZAC 護送は日豪友好の象徴として記憶されている。

第十話では、主として防衛省防衛研究所所蔵「大正戦役 伊吹戦時日誌」（史料番号：海軍省・日独・T3-62）に依拠して、巡洋戦艦「伊吹」の ANZAC 護送について紹介していく。

なお、引用史料については、仮名遣いは原則原文のまま、〔 〕は筆者によるものである。また、旧字を新字に改め、適宜句読点を補った。

イギリス海軍との協同作戦

「伊吹」は、明治 42（1909）年 11 月に竣工し、大正元（1912）年巡洋戦艦に列せられた。大正 3（1914）年、第一次世界大戦が勃発すると、日本は日英同盟に基づきドイツに宣戦布告、戦争状態に入る。「伊吹」は艦長・加藤寛治大佐の指揮で、「英国支那艦隊」とともに、索敵や通商航路の確保、オランダ領東インド中立の監視といった協同作戦を実施していた。



艦長 加藤寛治



巡洋戦艦「伊吹」

*左写真 加藤寛治大将伝記編纂会『加藤寛治大将伝』（加藤寛治大将伝記編纂会、昭和 16 年）

*右写真 防衛省防衛研究所所蔵「大正 3 年 8 月 海軍大将山本権兵衛氏の保有した軍艦伊吹アルバム」（史料番号：⑧写真-190）

大正3年9月17日、加藤艦長は島村速雄軍令部長あて電報において、「昨十六日夜半到着セル英海軍省ヨリ英長官宛ノ電訓ニ基キ「マイノートル」、伊吹ハ予定行動ヲ変更シ、両艦共十月四日迄ニ Fremantle ニ到着、同方面警戒及濠州ヨリ Colombo 方面迄ノ間ニ於テ二十二隻ノ欧州行陸兵運送船護衛ニ当ル筈」とあるように、「伊吹」が英艦「マイノートル」とともにオーストラリアからコロンボ（現スリランカ都市）までの護送任務に就くことになったのである（下史料参照）。

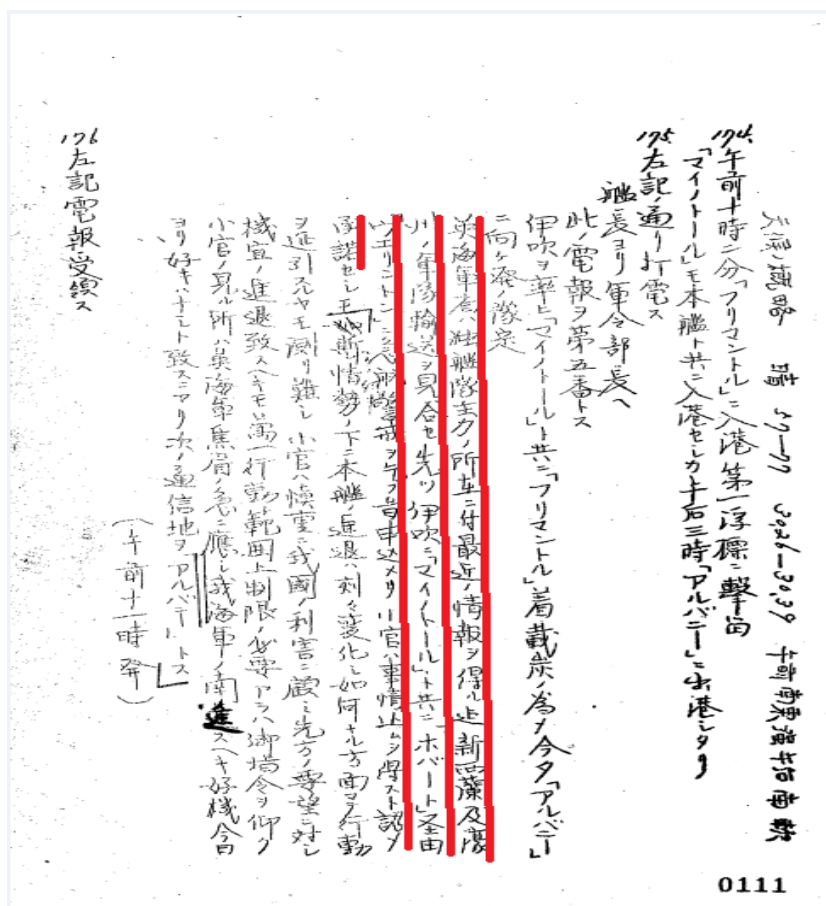
今捕鯨船 Simon 八月十日ヨリ九月迄 Missionary de Tag-
 ar, Saigon 間ニ往復セリ Day Book ヨリ明ナリ
 (正午受)
 C 在香港未田ト佐弁電(軍令部長ヨリ轉電)
 独船 = Baskin ノ乗員アリレ 英國人ノ談ニ依ル今船ハ八月十日 Mission
 ノS. 約在干渠(原文ニ疑アリ)ニ Schomberg, Geier, Emden
 ニ給示セリト
 (正午受)
 以上記
 加藤艦長ヨリ軍令部長ニ打電ス
 艦長ヨリ軍令部長
 此ノ電報ヲ第四番トス
 昨十六日夜半到着セル英海軍省ヨリ英長官宛ノ電訓ニ基キ「マイノ
 トール」伊吹ハ予定行動ヲ変更シ、而艦共十月四日迄ニ Fremantle ニ到着
 今方自警警戒及濠州ヨリ Colombo 方面迄ノ間ニ於テ二十二隻ノ欧州行
 陸兵運送船護衛ニ當ル筈ニ告
 九月二十日 Peking ヲ搜索シ伊吹ハ明ナ朝出港今ニ Sunda Str.
 由ニ日 Coror 島着航艦ノ航路ニ於テ Emden ノ退路ヲ遮断スルガ
 ノ Coror 島ニ於テ會合上 Fremantle 同フ Australia, Melbourne
 ニ受ハ直ニ New Zealand 方面ニ會合特艦ヲ力ニ當ル筈 本件ハ今ニ
 英海軍省ノ電訓ニ基キ
 詳細ハ梨ノ後報ス
 (十月五時分)

＊「大正戦役 伊吹戦時日誌」

JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C10080155100、伊吹戦時日誌（防衛省防衛研究所）

9月29日、「伊吹」は「マイノートル」とともに西オーストラリア西部の港町フリマントルに入港、「載炭」のため、西オーストラリア南部の港町アルバニーに向け出港した。加藤艦長は次のように島村軍令部長に電報を打っている。「〔前略〕英海軍省ハ独艦隊主力ノ所在ニ付最近ノ情報ヲ得ル迄新西蘭〔ニュージーランド〕及濠州〔オーストラリア〕ノ軍隊輸送ヲ見合せ、先ツ伊吹ニ「マイノートル」ト共ニ「ホバート」〔オーストラリア・タスマニア州都〕經由「ウエリントン」〔ニュージーランド首都〕ニ急航警戒ヲ乞フ旨申込メリ。小官ハ事情止ムヲ得スト認メ承諾〔後

略]」というように、イギリス海軍省は加藤艦長に対し、ドイツ艦隊の所在がつかめないゆえ、当面 ANZAC 護送を見合わせ、「マイノートル」とともにウエリントンに「急航」、警戒任務に当たってほしいと要請、加藤艦長はこれに応じたのであった（下史料参照）。



＊「大正戦役 伊吹戦時日誌」

JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C10080155100、伊吹戦時日誌（防衛省防衛研究所）

その後加藤艦長は、10月8日、12日とドイツ艦隊の動向に関する情報に接している。同月14日には香港・シンガポール出張中の山梨勝之進中佐に、「現況濠州政府ニテハ輸送艦隊ノ援護ニ関シテハ我海軍ニ依頼スル所大ナリ」と打電。16日ついにウエリントンからホバートに向け、「濠州及新西蘭軍隊輸送」のため出港するのであった。

ANZAC 護送任務

15日、加藤艦長は、「特別南遣日令第一号」および「第二号」において、翌日からの「濠州及新西蘭軍隊輸送ノ援護方法」などを定めている。「十月十六日午前六時ホバートニ向ケ出港」、「航行序列及陣形」、「昼間敵襲ヲ受クル場合ノ処置」、「夜間敵襲ヲ受クル場合ノ処置」、「敵襲ノ場合ニ於ケル輸送船隊ノ処置」、など詳細に取り決めたのであった（下史料参照）。

特別南遣目令第一號

大正三年十月十五日

於ウエリントン港

加藤伊吹艦長

麾下一般

一十月十六日午前六時ホバートニ向ケ出港ス
二航行序列及陣形ハ別圖ハ通り
三豫定航路及會合點ハ別表ハ通り
四原速十一節 徹速六節
五、當港ヨリホバートニ至ル航海中ハ艦内四直哨戒ヲ爲ス
(終)

特別南遣目令第二號

大正三年十月十五日

於ウエリントン港

加藤伊吹艦長

麾下一般

濠洲及新西蘭軍隊輸送ノ掩護方法概ネ次ノ如シ
一輸送基地ハアルバニーニス
二輸送船隊ノ編制ハ別表(甲)ハ通り
三航行序列及陣形ハ別圖ハ通り
四豫定航路、航行日程及會合點ハ別ニ之ヲ定ム
五出港順序
六入港順序及方法
ハ其程度之ヲ定ム
入港前信託ニ依リテ特矣ス

0157

0154

* 「大正戦役 伊吹戦時日誌」

JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C10080155200、伊吹戦時日誌(防衛省防衛研究所)

出港当日 16 日の日誌に、ウエリントンにおける対日感情が記録されている。それによれば、ニュージーランド人は元来日本人の入国に対し「絶対排斥」の態度を持ち、日英同盟をもって太平洋上の英国領植民地の存立に相容れないものとし、ややもすれば黄色人種が白色人種に災いをもたらすという「黄禍的宣伝ノ発源地タルノ觀」があった。しかし「欧州大戦」勃発後、「母国ノ威力遠ク此地」に及ばなくなり、同盟国日本の海軍に依頼せざるを得なくなるに及び、「伊吹」のウエリントン入港後、「公私共ニ当地ノ好感ハ頗ル懇切ナルモノアリ」、という。

10 月 21 日、加藤艦長から島村軍令部長あて電報に、「輸送船隊ヲ援護シテ〔ホバートに〕着。異常ナシ。当地ニテ輸送船尚二隻ヲ加へ、明二十二日午後一時「アルバニー」に向け出港する。「濠洲軍隊輸送船ハ同地〔アルバニー〕ニ集中中。本艦ハ同港付近にて分離シ、フリマントルニ於テ炭水補充ノ上」、再び輸送船隊に合同の予定、とある。

22 日、イギリス海軍省より加藤艦長へ「輸送船隊援護」をアラビア半島南端の港湾都市アデンまで継続するように「申込」があった。さらにフリマントルに向けて航行中の 27 日、山梨中佐より、軍令部がイギリス海軍省からの依頼について「承諾」した、との

電報があり、具体的には、「伊吹ハ「マイノートル」ト共ニアルバニー若クハフリマントルニ帰り、更ニ第二回輸送船護衛トシテ古倫母〔コロombo〕ヲ経テ亜丁〔アデン〕迄行クコト」、とあった。ここに「伊吹」は、アデンまでの護送任務を依頼されたのである。

29日、「伊吹」はフリマントルに入港し、加藤艦長は島村軍令部長に、「輸送船隊ハアルバニーニ集合済。今回ハ三十八隻トナル」、と打電。11月1日フリマントルを出港し、11月3日輸送船隊と合流、「特別南遣日令第二号」で定めた「序列及陣形」を「完成」させ、アデンに向け出港したのであった。

「エムデン」の「撃滅」

独艦「エムデン」は中国膠州湾から行方をくらまして後、連合軍の通商航路を攪乱していた。そのためその存在は、「伊吹」らのANZAC護送任務における脅威であったものの、ついに「撃滅」される。



「エムデン」

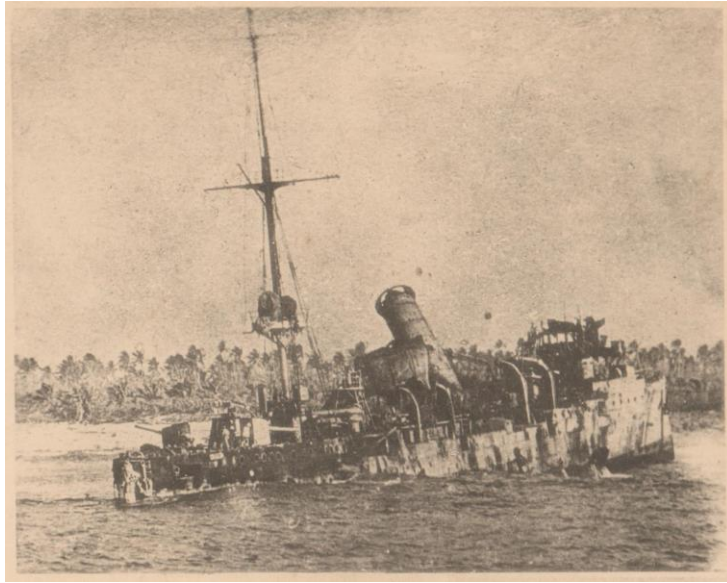
＊「大正3年8月 海軍大将山本権兵衛氏の保有した軍艦伊吹アルバム」

11月9日、「伊吹」は、グアム島南西に位置するココス島付近に差し掛かった頃、僚艦「メルボルン」より、同「シドニー」が敵と交戦中と報じてきた、との連絡を受ける。

「伊吹」は「合戦準備」に入り、臨戦の位置に移動する。だが、「敵情ニ関スル「シドニー」ノ報告要領」を得ず、「メルボルン」に照会していた中、ようやく「シドニー」から全艦に向けて発した電報を解読したところ、敵が座礁した、と判明した。続けて「伊吹」は「メルボルン」より、元の位置に戻るようとの要請を受け、「戦闘旗ヲ卸シ漸次元ノ位置進路ニ復帰」している。

その後の「伊吹」の調査報告によれば、「エムデン」は11月8日夜間にココス島附近に到達、9日午前6時頃、同島に接近して陸戦隊を揚陸し、電信所破壊作業を実施していた。同じ頃、「メルボルン」がココス島発の「疑ハシキ軍艦見ユ」との急電を受け、直ちに「シドニー」をココス島に派遣。「シドニー」がココス島に到達した時、「エムデン」は陸戦隊派遣後の「状勢」にあって、「シドニー」に戦闘を強いられて「痛撃」を蒙

り、「北キーリング島」に自ら「擱座」した、という。



「擱座」した「エムデン」

＊「大正3年8月 海軍大将山本権兵衛氏の保有した軍艦伊吹アルバム」

ANZAC 護送任務完了と感謝状



アデン港内

＊「大正3年8月 海軍大将山本権兵衛氏の保有した軍艦伊吹アルバム」

「エムデン」が「擱座」した後、これまで「伊吹」とともに護送任務に就いていた各艦は別任務のため次々に離脱し、「伊吹」一艦でコロomboに向かうことになった。11月15日、「伊吹」は無事にコロomboに入港。英艦「ハンプシャイヤー」とともに、17日出港する。そして11月25日、ついに目的地のアデンに到着した。

大正4年3月、オーストラリア政府は、ANZAC護送を無事に遂行した「伊吹」に対し、感謝状を贈呈したのである（下史料）。

今日、日豪は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、幅広い分野で緊密な関

係を深めている。巡洋戦艦「伊吹」の ANZAC 護送は、今後も日豪両国において、日豪友好の象徴として語り継がれていくであろう。

(COPY)

British Embassy,
Tokyo.
March 8, 1915.

No. 40.

143 Monsieur le Ministre,

It is my pleasing duty, under instructions from His Britannic Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs, to convey to the Imperial Government an expression of the high appreciation of the Government of the Commonwealth of Australia for the great services which His Imperial Japanese Majesty's Ship "Ibuki" so ably rendered while engaged on escort duty in attendance upon the expeditionary force despatched by Australia. At the same time the Naval Board of the Commonwealth wish that their personal acknowledgments and sense of gratitude may be communicated to Captain H. Kato, who was in command of His Imperial Majesty's Ship "Ibuki".

I am instructed to add that the British Government desire to associate themselves to the full with the present expression of appreciation tendered by the Government of Australia.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le Ministre, to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) Conyngham Greene,
B.H.M. Ambassador.

His Excellency
Baron Takaaki Kato, G.C.M.G.,
H.I.J.M. Minister for Foreign Affairs.

1201

*JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C11080288400、協同作戦関係文書 完 大正
3年8月4日~4年10月30日(防衛省防衛研究所)

(戦史研究センター史料室 山口昌也)